

「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」が発足し記者会見を開催

2017年4月14日金曜日に、吉原毅さん（城南信用金庫相談役）を会長とする「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」（略称 ^{げんじ れん} 原自連）が発足し、記者会見を開いた。顧問の小泉純一郎さん、副会長の中川秀直さん、幹事長・事務局長の河合弘之さん、幹事の鎌田慧さん・香山リカさん、賛同人の海渡雄一さん、事務局次長の木村結さんらが出席し行われた。

吉原会長、河合幹事長・事務局長からの趣旨説明ののちに、複数の記者との質疑応答が行われた。詳細は、末尾に紹介している新聞記事や記者会見の様子を映した映像（1時間弱）を見てほしい。

^{げんじ れん} 原自連の設立目的は、河合さんが冒頭に述べた次の言葉につきると思われる。

脱原発、自然エネルギーをめざす運動・団体は日本全国にある。しかし、相互の連携が弱いために、時間がたつと熱気が冷める。ヨコのつながりが必要である。ある経済人より言われた。「なんで全国組織がないの？」と。小泉さんに話したら「それは面白い、やろうよ」と。そこで、常設の事務所、常勤のスタッフがいる恒常的なものをつくり、組織的

・全国的に展開している ^{でんじ れん} 電事連に対抗していきたいと。

事務局次長の木村結さんからは、4月14日朝の時点で全国150の団体が参加を表明し、その他、連絡が遅くなったために参加を検討している団体があるし、海外の団体からの参加も予定されているという。また、会長の吉原さんの話によれば、多くの著名な経済学者・財界人・エコノミスト、さまざまな企業からの賛同も得られているという。

事務所は東京四谷に設け、事務局次長の木村さんが常駐する予定。

事務局次長の木村さんが、最後に抱負を語っていた。

自分はチェルノブイリの事故以降、脱原発をライフワークとしてきた。さこで培ってきたすべてを総動員して、この活動に邁進したいと。ドイツにキャンプ・アクトというNPOがある。何かことがあると40万人、100万人もの人を集める。自分が目指しているのも、こうした活動だと。

その他、質疑応答のなかでは、以下のことも明らかとなった。

- 3.11以降のなかで、今も国民の7割が原発を止めよう、原発は必要ないと思っている。しかし、未だに原発が「安くて」「安全」で「クリーン」だとする勢力が、経産省を中心に勢力を取り戻しつつある。最後の詰めができていない。
- 3.11を契機に原発廃止を決めたドイツでさえ、現状は原発10基が動いている。日本は、再稼働しなければ、ドイツを上回る勢いで原発ゼロに近い状態にあるといえる。原発ゼロだった2年間、全国で電力不足や停電は起こらなかった。原発ゼロでやっていけることは、事実が証明している。

- 3.11以降の自然エネルギーの広がりによって、すでに日本では、太陽光発電だけで原発10基分に相当する発電量がある。最近、農地の上1/3にメガソーラーを設置する事業が始まっている（メガソーラーシェアリング）。これが全国の農地で行われるとすれば、発電量は原発1840基分に相当するという試算もある。日本は、エネルギーを自給できるし、こうした事業は、農家の収入を増やし、地方の過疎化対策ともなる。
- 最後の詰めのためには、全国的な国民運動を展開しなければならない。良心的な保守も含めて、保守から革新まで、右から左まで、イデオロギーを抜きにして連帯する必要がある。
- 原発をゼロにし自然エネルギーに転換することは、日本経済の活性化につながるし、日本の未来にとって必要である。原発に固執することで、現状、日本は世界の動きから取り残されている。政治が判断さえすれば、早い転換は可能である。
- 原自連の活動としては、講演会、映画会、意見交換会、「自然エネルギー大賞」「脱原発大賞」の授与などを行っていききたい。さらに、エネルギー策定計画など組織としての意見も打ち出していきたい。

(参考資料)

- ・新エネルギー新聞 <http://www.newenergy-news.com/?p=9210>
- ・東京新聞 <http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/201704/CK2017041502000133.html>
- ・You Tube 結成記者会見の映像 <https://www.youtube.com/watch?v=fznWAiegx-o>

(文責 片山純子) 2017年4月24日公開